



国際情報

INTERNATIONAL & INFORMATION

新潟国際情報大学広報 第13号

〒950-2292 新潟市みずぎ野3丁目1番1号 tel 025-239-3111 fax 025-239-3690 E-mail somu@nuis.ac.jp URL http://www.nuis.ac.jp

インターネットが変わる

情報センター長
渡辺 忠

インターネット利用者が急速に増えている。昨年9月から今年9月までの1年間に世帯利用率(インターネットを使う人がいる世帯の割合)が全国平均で30.5%から44.7%へ約14ポイント伸びた(ビデオリサーチ・ネットコム調べ)。新潟県でも23.8%から36.9%へ急増した。来年の今ごろは半数の世帯が利用しているという状況が出現しそうだ。学生諸君のパソコン保有率も驚くほど増えている、インターネット環境が急激に変化していることを実感する。

日本のインターネットは通信回線の利用料金が高いことが普及の障害になっていた。しかしここに来てADSL、CATVインターネット接続の低価格化が急速に進み、今や月額料金3,000円ほどで数Mbpsの高速インターネット環境が入手できるようになった。総務省の統計によれば、今年8月末時点のDSLユーザー(大半がADSL)数は約51万人。昨年末時点では1万人にも満たなかったから、わずか8カ月の間に50万人も新規加入したことになる。CATVなどを含めると、今年中に300万人を超えるだろうという予測もある。高速データ転送が可能な光ファイバーを各家庭につなぐFTTH(Fiber To The Home)サービスも開始された。今や日本は、さまざまな種類の高速インターネット接続が低価格で提供される世界有数の国になりつつあるといえる。インターネット利用に更に弾みをつけるだろう。1年前とは様変わりである。

高速インターネットを使っている人は「とにかく快適だ」と口を揃える。高速になってインターネットを利用する時間が3倍になったという報告もある。動画を楽しみたい、音楽のダウンロードに使いたいなど、これまでの延長上にある要求に応えるのみならず、これからはインターネットのコンテンツが変化する。これまでのインターネットはつながりにくい、重くなる画像は使にくい、電話料金を気にしながら使うなど、制約が多かった。通信速度が上がり、また通信時間を気にする必要がない常時接続環境になることで、ホームページの作り方が変わる。家庭がテレビ局のような放送局にもなる。ライブ中継などはどこで行われているものでもインターネット放送されるようになるだろう。双方向性がますます加速され、インターネットテレビ電話なども近い将来に実用化されそうだ。それらがインターネットの有用性や面白さを更に向上させるだろう。

政府のIT戦略本部が今年3月に公表した「e-Japan重点計画」では、「5年以内に少なくとも3,000万世帯が高速インターネット網(ADSL、CATV、無線インターネット)に、また1,000万世帯が超高速インターネットアクセス網(光ファイバー)に常時接続可能な環境が整備され、必要とするすべての国民が低廉な料金で常時接続できる」ようにすることを目標としている。そんなに早くは……と誰もが思ったはずだ。現在の日本の世帯数は約4,600万世帯である。政府の目標が達成されれば9割近い家庭がブロードバンド環境を持つことになる。しかし、これが次第に現実味を帯びてきた。近々インターネットもテレビ・電話・活字媒体に並ぶ本格的メディアとして定着するということであろう。大学のインターネット環境の改善も急がねばならないと考えている。



海外留学

「まだ始まったばかり。
でも確かな歩を踏み出した。」

国際交流委員会委員長 小澤 治子

この2年間は、国際交流委員会にとって実に忙しく、また同時に充実した毎日であった。昨年4月の中国北京師範大学歴史学部との交流協定の調印を皮切りに、11月にはロシアの極東国立総合大学、本年1月にはアメリカのノースウエスト・ミズーリ州立大学教養学部、さらに4月に韓国の慶熙大学国際教育院と交流協定の締結を行った。こうして昨年度は情報文化学科の派遣留学制度のパイロット・プログラムとして30名の学生が約4ヶ月北京師範大学に留学し、また情報システム学科主催の海外夏期セミナーには20名の学生が、カナダのアルバータ大学で4週間研修を行った。そしてついに本年度、アメリカ、カナダ、韓国、中国、ロシアの5つのコースで本格的に留学プログラムが開始されたのである。

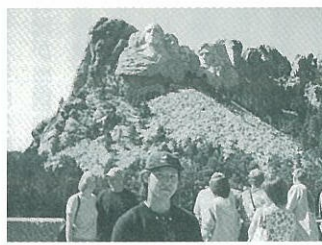
夏休みに5週間アメリカに留学した17名の学生達、またカナダに同じく5週間留学した14名の学生達は、全員無事で元気に帰国した。大変素晴らしい充実した環境の中で緊張の中にも楽しい毎日であったと聞いている。現在韓国で12名、中国で15名、ロシアで6名の学生達が勉強を続けており、メールなどの連絡によると、外国語の上達も著しく、異文化との接触の中でたくさんの友人と交流し、充実した毎日を送っているという。韓国や中国と日本の間には、歴史認識の相違をめぐる問題があり、またロシアについて日本で触れることのできる情報は、質量共に限られている。だからこそ、本学の学生がこれからの国々の大学で学ぶことの意義は、想像に余るほど大きいものがある。

現在3カ国で勉強している学生達が本年12月末から来年1月にかけて元気に帰ってくることをまず第一に祈念したい。そして本学の留学プログラムが来年度以降もますます充実して継続していくこと、本学の国際交流がさらに発展すること、さらにこのようなプログラムが成果を挙げるためにも、何よりも平和な世界であることを祈つてやまない。

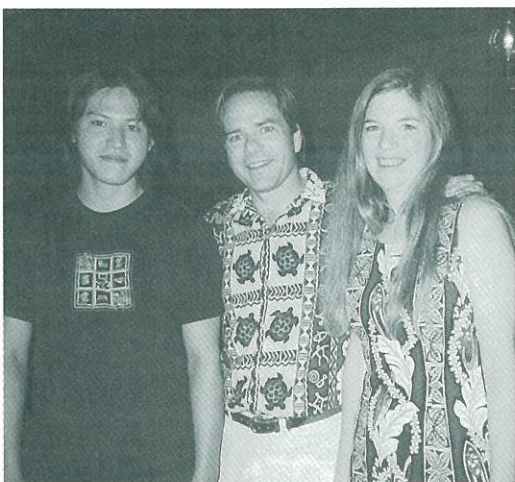
アメリカ体験記 ノースウエスト・ミズーリ州立大学にて

情報文化学科3年 有田 純也

アメリカ留学は僅か1ヶ月の期間でしたが得るものは多くありました。出発する前に1ヶ月間で何が出来るかを考えました。私は海外で一人暮らしをしてみたいと思



いるので色々なコミュニケーションを試みようと思いました。まず一つは極力米をたべないということです。海外生活で大事なことの一つに食生活があると思います。それに耐えられない人はたぶん大きな支障を来すことでしょう。幸いな事に(?)私はまったく平気でした。二つめは日本人グループを極力作らないことでした。日本人同士でいればどうしても日本語を使ってしまう。だからなるべくアメリカ人の仲間を作るように努力しました。おそらくこのことが一番難しいのではないのでしょうか。アメリカ留学を終えて私は、一人で海外生活ができるという自信が確信に変わったと思います。



カナダ体験記 アルバータ大学にて

情報システム学科3年 本間 希美子



▲左から2番目が筆者

今回の海外研修は私にとって海外で語学を学ぶ二度目の体験でした。以前は中学三年の時、自分から話すと言うよりも相手に話しかけられて初めて口を開くそんな日々の連続でした。今回は自発的に話さなければいけないと思い、その為に外国人の友達を作ろうと決めて参加しました。幸い私が三週間滞在したホームステイの家には私を含め各国の学生が四人おり、彼女達との交流は大変意義深いものでした。また、アルバータ大学で私達の担当をして下さったクリスとも歳が近かったため、実にたくさん話をし、仲良くなりました。自分と歳が近い人達と話す事で、より一層、自分と違った国の人の存在が身近に感じる事が出来たと思います。

ここで紹介した人達はもちろんの事、企業訪問や毎日の大学生活で知り合った様々な人達との出会いが私にとって最高の出来事で、忘れられない思い出となりました。

韓国慶熙大学の招請により学長訪韓

2001年11月27日、武藤学長は慶熙大学の招請により同大学を訪問しました。本学派遣留学韓国コースの学生の授業を参観したり、慶熙大学総長をはじめ、多くの先生方を表敬し、今後の交流発展について懇談しました。

(広瀬貞三 記)

北京師範大学で学部長講演

2001年11月27日、槻木学部長は本学の派遣留学中国コースを視察するために、北京師範大学を訪問しました。同日、北京師範大学の人文社会科学の教員、大学院生および学部生を対象に、「情報システムと人間社会との調和」というテーマの講演を行いました。

(區 建英 記)



▲慶熙大学にて



▲北京師範大学にて

学外実習 インターンシップ 体験記

「実践的に学んだこと」

情報システム学科3年 金子 朋弘
(実習先・富士通新潟システム)

今回の実習で私が得たものは、企業の実務において必要とされる技術・知識とは何かということ、社会人としての常識の一点が挙げられます。

FJNのワークフローシステムとシステム設計手順を見せただき、大学で学んできたことの共通点・相違点を見出し、自分が学んでいることの有効性はどのくらいであるのかを知り、また新たなものへの柔軟な対応と積極的なアプローチの重要性を再認識しました。

社会人の常識としては、挨拶等の礼儀はもちろん、顧客の要求を聞き漏らさない、プロジェクトチームの各人との連携、いすれにも高いコミュニケーション能力が必要とされていることを知ることができました。

「簿記の資格が目標に」

情報システム学科3年 内藤 真弓
(実習先・新潟商工会議所)

10日間もあると思っていたのだが、あつという間に過ぎてしまった。あんまり短いので物足りない感じがする。業務を手伝うといっても単純作業ばかりで、たいした仕事を手伝ったりはしなかった。各課では業務内容について熱心に説明してくれたので、私も聞き逃さないようにメモをたくさんとり、毎日ノートにまとめた。

新潟商工会議所で学んだことは、資格の重要性である。どの課に行っても簿記の資格はあったほうがいいと言われた。簿記は運転免許のようになり前の資格であると言われた。だから私も受けてみようと考えている。受けるからにはもちろん合格したい。2月に簿記の試験があるので、それに向けて気合いを入れようと思う。

「銀行のあり方を実感」

情報システム学科3年 藤田 瞳
(実習先・第四銀行)

銀行と聞くと一般の企業とは違った職種であるので、銀行の内部ではどんな業務が行われているのか興味がありました。実際に目で見て、またお話を伺ってみて、職種が違っても、信用が第一、顧客が第一という基本的な企業理念は、一般の企業と変わらないということを感じました。むしろ扱っているものがお金であるために信用を得るための対策、心がけがとても大切であるということ学びました。

以前は、銀行の歴史や店舗数、行員数が安全性のバロメーターであると考えられていたようですが、現在は企業の内容をどうやって顧客に示すか、顧客の立場に立つて考えられる銀行が安心できる銀行であると評価されるのだと思いました。

「得るものが多かった10日間」

情報システム学科3年 大谷 敏夫
(実習先・BSNアイネット)

初めて企業の中を覗いてみて、1日の内容の濃さに驚いた。そして、仕事の見直し、修正が非常に大切であることを知った。BSNでは、3年のプロジェクトがあるとすると、立案、打ち合わせに1年、制作に1年、見直し・修正に1年かかるということだった。また、SEにとって何よりも大切なことは、顧客の信頼であることもわかった。BSNはベンチャー企業と違い、実績のある企業なので、特にその点を重視していた。そして、これから先必要とされる人間は、学歴や肩書きではなく、やる気と行動力があり、新しい発想ができる人間である、とのことだった。

10日間という短い間ではあったが、得るものが多く、非常に有意義な10日間だった。

「社会人とは、仕事とは」

情報システム学科3年 谷 博之
(実習先・東映ホテル)

とても多くのことを学び、中でも一番に感じたことは、「あいさつ・声・気づかい」はとても重要であるということです。これはホテルに限らず社会人・企業人として忘れてはならないことであると感じました。また、時々自分でも何を言っているのかわからなくなることがあり、言いたいことを伝えたいことをもつと上手に相手に伝えられる話し方をしなければならぬと感じました。

宴会場・レストラン・ビアホール・営業と一通り経験したわけですが、お客様に対する姿勢によって、すべての業務が繋がっている気がしました。また、仕事とは積み重ねなのだ感じました。学校の勉強では味わえないことがたくさんあり、とてもためになりました。

「多くの人が関わる仕事」

情報システム学科3年 長谷川 圭介
(実習先・三菱電機エンジニアリング)

今回は画像を操作するプログラム開発の実習を行ったが、小さなプログラムであってもいくつかがドキュメントを作成しなくてはならなかった。当初、小さなプログラムの割に多くのドキュメント作成があったので、無駄のように思ったが、実際に大きなプログラムを多くの人が分担して作成する場合、人から人へプログラムだけが渡されただけでは何も分からないので、ドキュメントを作成する必要があることを教えていただいた。

また、ドキュメントを作成した際には、上司の方に査読をしてもらい間違いを発見し、間違いがなくなるまで修正を行う。製品を出荷してからミスが発見されるようなことがないように、念には念を入れてチェックしていることが分かった。

「社会で必要とされること」

情報システム学科3年 諸橋 美歩
(実習先・日本海区水産研究所)

大学での情報システム演習の目的と必要性、さらにその技術が企業内での位置で利用されているかイメージできていなかった。しかし、実習課題をする過程で、エクセル処理のような授業で学んだ技術がなければ処理できないものが多いことに驚きを感じるとともに、この2年半学んできたものがなければ実社会は成り立っていない現状を実感することができた。

また、情報処理する側の人間にとって、その処理結果を必要とされることがこれほどまでに責任とやる気を与えてくれるのだと知り、自分に与えられた仕事を早く正確にこなすことで、所属している企業の環境変化への素早い適応と信頼性に大きく影響することをも実感できた。

第8回 新潟国際情報大学学園祭 KOSHOSAI

紅翔祭

～21世紀を迎えて、初めての学園祭～

10月27日(土)・28日(日)に行われた、第8回紅翔祭。21世紀を迎えて初めての学園祭ということで、「見つけよう! 新たな出会い」がテーマでした。

今回のメインイベントは「ジェームス三木氏 文化講演会」で、ほかにも学生自らが運営する企画が盛りだくさん。父母会をはじめ地元の赤塚からも大勢の方々にご来場いただき、大盛況となりました。

イベント / EVENT

メインイベント

脚本家が語る、人生のヒント



ジェームス三木氏 文化講演会

～ドラマと人生～

TVドラマ「滞つくし」「独眼竜政宗」「八代将軍吉宗」などの脚本で不動の人気を得、2000年NHK大河ドラマ「葵」の脚本も担当したジェームス三木氏を迎えての講演会を28日(日)に開催。幾多の人間ドラマを描いてきた脚本家らしい演題とあって会場は超満員に。ドラマの中に隠されている、人生のヒントとは何か。笑いをとりながらの軽妙なトークに全体が引き込まれ、楽しいひとときとなりました。



●情報システム学科 2001年度 海外夏期セミナー報告会

夏休みの5週間、カナダのアルバータ大学に留学した学生たちの様子を紹介。



●民族衣装ファッションショー

中国文化研究会の学生が、中国のさまざまな民族衣装をまとして登場。珍しい衣装の数々に、観客はすっかり魅了されました。



●新潟県ベンチプレス大会

新潟県パワーリフティング協会主催で、本学を会場に行われた公式大会。今回は日本新記録が出て、大いに盛り上がりました。



●スピーチコンテスト

毎年恒例の英語スピーチコンテスト。内容や発音はもちろん、声の大きさやジェスチャーなど、表現力も審査の対象。堂々のスピーチに拍手!

第8回紅翔祭を終えて

紅翔祭実行委員長

熊谷 英俊

21世紀が始まり、最初の紅翔祭が終りました。わずか2日間の紅翔祭のために、実行委員会では7月から約4か月間もひたすら準備を続けました。本番近くになると、早朝から夜遅くまで、準備に追われました。途中、実行委員の一人が入院するなどの大問題もありましたが、先生方をはじめ、事務の方、業者の方、先輩、学生に助けられ、無事に紅翔祭を終えることができてホッとしています。

当日は、父母会の皆様による文化講演会が大盛況となり、中国の民族衣装ファッションショーも好評を博しました。準備段階で問題があったにもかかわらず、これほどの成功を収めることができたのは、皆様の温かいご協力があったからです。

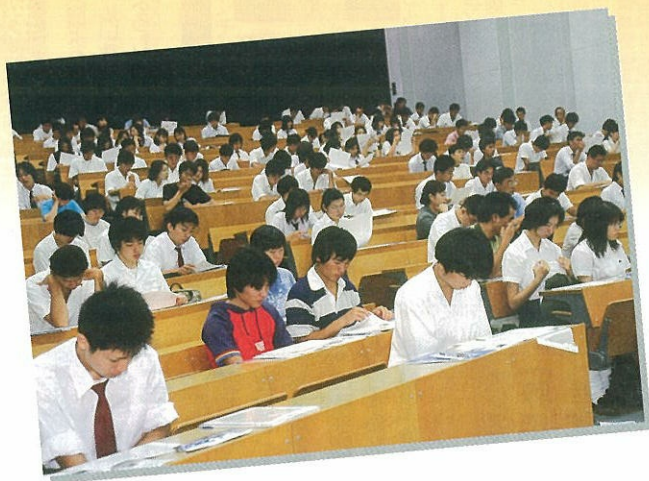
また、今年は例年以上に手作りの良さをアピールしました。伝統と言えるような長い歴史はありませんが、紅翔祭を開催するための基礎を作り、それを残してくれたOB、OGの方々の偉功を存分に反映できたと思っています。

紅翔祭実行委員会として、多くの方々に支えられ、紅翔祭が成功したことは大きな収穫であり、チームワークの大切さを教えてくれた紅翔祭に感謝しています。

紅翔祭を終え、我々、紅翔祭実行委員会一同は、関係者の方々と紅翔祭にお越しいただいたお客様への感謝の気持ちでいっぱい입니다。紅翔祭実行委員会を代表し、温かいご協力をいただいた関係者の方々に、この場を借りて心よりお礼申し上げます。是非、来年も宜しくお願いいたします。

2001 オープンキャンパスレポート

2001 OPEN CAMPUS REPORT



新潟国際情報大学では、今年も7月28日(土)と9月30日(日)の2回に渡り、オープンキャンパスを開催しました。延べ300名ほどの高校生・父母が参加。昨年を上回る数となりました。

当日はまず一堂に会したところで、学長の挨拶、学科説明、入試説明があり、その後、希望のコースに分かれての体験学習を実施。講義・実習・語学・フリーコーナーとも、それぞれ興味深い内容で構成され、たくさんの参加者が集まって真剣に聞き入ったり、楽しそうに会話をしたりしていました。中でも人気が高かったのがコンピュータ実習で、2回ともすぐに教室が満員に。

また、参加者全員に学食の試食券が配られ、ランチタイムには食堂に長い列ができました。

大学は未知の世界である高校生にとって、オープンキャンパスはよい体験となったようです。



●ホームページを楽しむ高校生



●CEP (Communicative English Program) の講義



●個別入試進学相談

■ 1回目の体験実習の内容

講 義	コンピュータ実習	語 学	フリーコーナー
国際社会と法 マーケティングと情報 体型および体力を診断する	インターネット入門 プログラミング体験 ホームページ再発見 ホームページを理解する	CEP 中国語	個別入試進学相談 海外留学相談 在学生の何でも相談



●おいしそうに食べています。

～国際化・情報化を体感～

NUIS-LIVE 開催!

「大学では、どんなことを学ぶの?」という高校生のために、本学の特色ある講義を実際に体験してもらう「NUIS-LIVE」を開催。10月、11月の土曜日の午後を利用して、計4回行いました。各回とも学科・カリキュラム説明の後、3時限に渡りそれぞれ多彩な科目を設定。講義時間は50分で、どの講義でも自由に受けることができます。中身の濃い授業に、みんな満足した様子でした。

■ 各回の講義

10月13日(土)

『環日本海論』 『情報文化』
『マーケティング』

10月27日(土)

『CEP』 『現代の経済』
『人工知能』

10月20日(土)

『情報システム開発』 『情報検索』
『韓国朝鮮史概説』

11月10日(土)

『プログラミング技術特論』 『国際法』
『現代中国論』



学外実習 インターンシップ 体験記

「実践的に学んだこと」

情報システム学科3年 金子 朋弘
(実習先・富士通新潟システム)

今回の実習で私が得たものは、企業の実務において必要とされる技術・知識とは何かということ、社会人としての常識の二点が挙げられます。

FJNのワークフローシステムとシステム設計手順を見せていただき、大学で学んできたことの共通点・相違点を見出し、自分が学んでいることの有効性はどのくらいであるのかを知り、また新たなものへの柔軟な対応と積極的なアプローチの重要性を再認識しました。

社会人の常識としては、挨拶等の礼儀はもちろん、顧客の要求を聞き漏らさない、プロジェクトチームの各人との連携、いすれにも高いコミュニケーション能力が必要とされていることを知ることができました。

「簿記の資格が目標に」

情報システム学科3年 内藤 真弓
(実習先・新潟商工会議所)

10日間もあると思っていたのだが、あっという間に過ぎてしまった。あんまり短いので物足りない感じがする。業務を手伝うといっても単純作業ばかりで、たいした仕事を手伝ったりはしなかった。各課では業務内容について熱心に説明してくれたので、私も聞き逃さないようにメモをたくさんとり、毎日ノートにまとめた。

新潟商工会議所で学んだことは、資格の重要性である。どの課に行っても簿記の資格はあったほうがいいと言われた。簿記は運転免許のようになり前の資格であると言われた。だから私も受けてみようと考えている。受けるからにはもちろん合格したい。2月に簿記の試験があるので、それに向けて気合いを入れようと思う。

「銀行のあり方を実感」

情報システム学科3年 藤田 瞳
(実習先・第四銀行)

銀行と聞くと一般の企業とは違った職種であるので、銀行の内部ではどんな業務が行われているのか興味がありました。実際に目で見て、またお話を伺って見て、職種が違ってても、信用が第一、顧客が第一という基本的な企業理念は、一般の企業と変わらないということを感じました。むしろ扱っているものがお金であるために信用を得るための対策、心がけがとても大切であるということを知りました。

以前は、銀行の歴史や店舗数、行員数が安全性のバロメーターであると考えられていたようですが、現在は企業の内容をどうやって顧客に示すか、顧客の立場に立つて考えられる銀行が安心できる銀行であると評価されるのだと思いました。

「得るものが多かった10日間」

情報システム学科3年 大谷 敏夫
(実習先・BSNアイネット)

初めて企業の中を覗いてみて、1日の内容の濃さに驚いた。そして、仕事の見直し、修正が非常に大切であることを知った。BSNでは、3年のプロジェクトがあるとすると、立案、打ち合わせに1年、制作に1年、見直し・修正に1年かかるということだった。また、SEにとって何よりも大切なことは、顧客の信頼であることもわかった。BSNはベンチャー企業と違い、実績のある企業なので、特にその点を重視していた。そして、これから先必要とされる人間は、学歴や肩書きではなく、やる気と行動力があり、新しい発想ができる人間である、とのことだった。

10日間という短い間ではあったが、得るものが多く、非常に有意義な10日間だった。

「社会人とは、仕事とは」

情報システム学科3年 谷 博之
(実習先・東映ホテル)

とても多くのことを学び、中でも一番に感じたことは、「あいさつ・声・気づかい」はとても重要であるということでした。これはホテルに限らず社会人・企業人として忘れてはならないことであると感じました。また、時々自分でも何を言っているかわからなくなることがあり、言いたいことを伝えたいことをもっと上手に相手に伝えられる話し方をしなければならぬと感じました。

宴会場・レストラン・ビアホール・営業と一通り経験したわけですが、お客様に対する姿勢によって、すべての業務がこなされている感じがしました。また、仕事とは積み重ねなのだと感じました。学校の勉強では味わえないことがたくさんあり、とてもためになりました。

「多くの人が関わる仕事」

情報システム学科3年 長谷川 圭介
(実習先・三菱電機エンジニアリング)

今回は画像を操作するプログラム開発の実習を行ったが、小さなプログラムであってもいくつかがドキュメントを作成しなくてはならなかった。当初、小さなプログラムの割に多くのドキュメント作成があったので、無駄のように思ったが、実際に大きなプログラムを多くの人が分担して作成する場合、人から人へプログラムだけが渡されただけでは何も分からないので、ドキュメントを作成する必要があることを教えていただいた。

また、ドキュメントを作成した際には、上司の方に査読してもらい間違いを発見し、間違いがなくなるまで修正を行う。製品を出荷してからミスが発見されるようなことがないように、念には念を入れてチェックしていることが分かった。

「社会で必要とされること」

情報システム学科3年 諸橋 美歩
(実習先・日本海区水産研究所)

大学での情報システム演習の目的と必要性、さらにその技術が企業内での位置で利用されているかイメージできていなかった。しかし、実習課題をする過程で、エクセル処理のような授業で学んだ技術がなければ処理できないものが多いことに驚きを感じるとともに、この2年半学んできたものがなければ実社会は成り立っていない現状を実感することができた。

また、情報処理する側の人間にとって、その処理結果を必要とされることがこれほどまでに責任とやる気を与えてくれるのだと知り、自分に与えられた仕事を早く正確にこなすことで、所属している企業の環境変化への素早い適応と信頼性に大きく影響することをも実感できた。

単位互換制度はじまる

単位互換協定



新潟大学と敬和学園大学の人文学部、新潟国際情報大学情報文化学部の3大学が来年4月1日から単位互換を実施することになり、12日、協定書の調印式が新潟市五十嵐の新潟大学で行われた。

新潟大学と敬和学園大学の人文学部、新潟国際情報大学情報文化学部の3大学が来年4月1日から単位互換を実施することになり、12日、協定書の調印式が新潟市五十嵐の新潟大学で行われた。

新潟大
敬和学園大
国際情報大

単位互換協定に調印

来春実施 研究充実へ弾み

単位互換は、各大学の交流促進や教育内容の充実などを図るのが狙い。昨年11月から四回に分け検討会を開いてきた。

他大学の学生が履修できる授業科目は新潟大で六十七科目、敬和大学で四十七科目、国際大で三十九科目となっている。

式では、三大学の学長があいさつ。敬和大学の北垣宗孝学長は「魅力的な単位が並び、大学の可

新潟大と敬和学園大学人文学部、新潟国際情報大学情報文化学部の単位互換の協定書調印式
出席しました。

▲新潟日報朝刊 13.11.13掲載

大学院進学

情報システム学科4年次生石川雅浩さんと内藤美矢さんが新潟大学自然科学研究科修士課程に合格しました。

みずき会報 Vol.3 発行

平成13年10月、みずき会(同総会)会報Vol.3が発行されました。ご意見・ご感想がありましたら学内事務局までお願いします。



資格試験

在学中の勉強の成果を試す、各種試験が学内外で行われています。各試験の案内書は就職課に用意してあります。

- TOEIC：受験者84名(男36、女48)
- 中国語検定：受験者14名(男0、女14)
- うち3級合格者が4名、4級合格者が3名でした。
- 情報処理技術者試験：受験者23名(男18、女5)うち、初級システムアドに1名合格しました。

ベンチプレスでJr.日本新

本学で行われた、ベンチプレス県選手権大会で、男子67.5キロ級の渡部淳選手が185キロを挙げ優勝。本人の持つジュニア男子日本新記録を塗り替えた。本学からは、情報システム学科3年の上村一夫さんが56キロ級で優勝した。

課外活動報告 (12月1日現在)

E.S.S
HESSA会議
HESSAレシメンダンスカッシーン
HESSA夏の交歓会
HESSAオアトリカルビーチコンテスト
【桑野誠(優勝)】

韓国・朝鮮語スピーチコンテストで最優秀賞

10月21日(日)万代市民会館において「第4回韓国・朝鮮語スピーチコンテスト」が開かれ、自由作文部門で情報文化学科3年 高橋いずみさんが最優秀賞を受賞しました。また、本学の代表として、日本大学生訪韓研修団(日韓文化交流基金主催)の団員として11月27日(水)～12月6日(水)に韓国を訪問しました。

この研修は韓国の文部省が招聘したもので、高橋いずみさん以外には東京大学、東京外国語大学、九州大学など計18名の学生が参加しました。

英語スピーチコンテスト準優勝

去る11月10日(土)新潟ワシントンホテルにて、「専門学校VS大学対抗スピーチコンテスト」が行われました。

本学からは、ESS(英語サークル)に所属している、情報システム学科3年桑野誠君と、同じく情報システム学科3年横山新平君が参加しました。

本学の他に、東京外国語大学の学生も招かれ、総勢15人の参加者か、おもいおもいのスピーチを披露しました。結果、桑野誠君が準優勝の成績を修めました。

バスケットボール

- 第35回笹本杯争奪北信越学生バスケットボール春季リーグ戦【男子3部 B2位】
- 第35回北信越学生バスケットボール選手権大会兼インカレ予選

バドミントン

- 北信越大学バドミントン選手権大会【1部リーグ2位】
- 第50回中部学生バドミントン選手権大会
- 北信越バドミントン選手権大会
- 第41回西日本学生バドミントン選手権大会
- 全日本学生バドミントン選手権大会

陸上競技

- 第51回中越陸上競技選手権大会
- 第75回北信越学生陸上競技対抗選手権大会女子砲丸投げ【幾野貴子 決勝3位】
- 新潟県都市対抗陸上競技大会
- 第16回ナイター陸上
- 第56回国民体育大会新潟県予選会
- 第32回北信越学生陸上競技選手権大会【女子砲丸投げ3位・女子やり投げ2位 幾野貴子】
- 第54回新潟県横断都市対抗駅伝競走大会

軟式野球部

- 新潟地区大学軟式野球連盟春季大会【全勝優勝】
- 第24回全日本大学軟式野球選手権大会【2回戦(一回戦シード)对上武大学(北関東)2-3敗退】
- 第22回東日本大学軟式野球選手権大会

フィットネス研究会

- 第26回新潟県パワーリフティング選手権大会【小柳直久 男子56キロ級優勝】

バレーボール(男女)

- 第32回北信越男女バレーボール選手権大会【女子2部昇格】
- 第49回秋季北信越男女バレーボール選手権大会

水泳

- 第74回関東学生選手権大会水泳競技大会
- 第37回市民体育祭 第29回新潟市年齢別選手権

サッカー

- 第25回総理大臣杯北信越大会
- 新潟県大学・高専リーグ
- 全国大学王座決定サッカートーナメント

「就職懇談会」開催

去る11月14日(木)、今年も新潟市のホテルにおいて、企業との「就職懇談会」が盛大に開催されました。約250社から就職担当者など300名が参加。本学からも理事長、学長、学部長、就職指導委員をはじめ多くの教職員が出席しました。

相変わらず厳しい社会状況が続く中、就職活動をより積極的に支援していくと、今回は懇親会に先立ち、講演会を企画。テレビでおなじみの評論家 田原総一朗氏をお招きして、「時代をよむ」というテーマでご講演をいただきました。先行き不透明といわれ、混乱する現代に対し、氏の鋭い視点が明快なことばで語られた講演会は、実に有意義なものとなり、参加された皆様から大好評を博しました。

その後の懇親会では活発な交流が行われ、各企業の皆様から貴重なご意見や情報をいただくことができました。その成果はこれからの就職活動に活かしていきます。



西川 時代激まつり 出演記

新潟国際情報大学に
おける伝統

情報システム学科2年

上林 彩乃

去年は都合が悪く参加できなかったもので、今回が初めての参加になりました。

「化粧をして、カツラをかぶって、着物を着て町中を歩く」とは前から聞いていたものの、実際どんな感じになるのかは当日にならないと解る苦もなく、心の片隅にうつすら不安を残しながらいざ、当日。

一言で言うところ、「びっくりしました」。…何にびっくりしたかって、通り支度が終わってトイレに行った時に鏡に映っていた自分の顔に…。先輩から『びっくりするよ』と言われてはいましたが、ああもうホントに。でも、これも貴重な体験ですよ。

着物なんて、七五三以来着てませんし。長時間カツラをかぶっているのがどれだけ大変なのかも解りましたし…。参加させて頂いて良かったと思います。

…だから、休憩時間に他の役の人が持っていた刀を振り回して遊んでいた姿は記憶の彼方にすっ飛ばして下さい。一生の思い出です。



Webレポーターって知ってますか?



NUISのHPをご覧になったことはありますか? 学内の行事やイベントをWebレポーターが取材しています。学生の生の声をお届けします。



本学見学のお知らせ

月曜～金曜いつでも受付付けています。お気軽にお申し出ください。キャンパスプレゼンター(在学生)が学内をご案内します。入試・学費奨学・留学etc何でも質問にお答えします。

湧 YUUGEN 源

編集後記に代えて

広報委員長 高木 義和

新潟国際情報大学に平成13年に入学された新入生の皆さんに大学進学に関するアンケートを行いました。大学への進学をどのようにして決めましたかとの質問に、自分では決めた回答した人が約5割と最も多かったのは当然ですが、親として相談して決めた回答した人も約4割あり、進路決定に親が果たしている役割も大きいという結果になりました。

新潟国際情報大学を受験した理由として、情報文化学科に進学した学生の場合は、「県内にある」「家から通学できる」「言語、国際化を学べる」「情報化について学べる」が選択理由の上位となりました。志望学科があったと答えた割合は中位で、学科より大学の選択を優先している傾向が認められました。一方、情報システム学科の場合は、「情報化について学べる」「志望学科があった」「家から通学できる」「コンピュータ、ITを学べる」が選択理由の上位となりました。国際化について学べると答えた割合は下位で、情報についてかなりの絞って学科を選択している傾向が認められました。

広報委員会では、高校や高校生に向け国際化・情報化を柱にした広報活動を行っていますが、これらのアンケート結果を参考にし、大学や学科に関する情報をよりわかりやすい形で提供していきたいと思っています。アンケートにご協力頂いた新入生の皆さんありがとうございました。